



いよいよ閉会！来年の福島集会へバトンをつなぎます

八月二十日(日)を皮切りに幕を開けた今集会は、九月二十四日(日)の閉会集会をもって閉幕しました。

閉会行事、委員長あいさつ

閉会にあたり社全協の姉崎洋一委員長から主催者代表の挨拶がありました。▼ここ数年、オンラインを基本としていた全国集会在、対面を基本として、大阪観光大学、現地世話人などの力強い協力で開催できたことに対する感謝が述べられました。▼また、九州集会から受けたバトンを「公共性を取り戻す」というテーマで引き継ぎ、一貫して議論が行われた、という成果についても、お言葉をいただきました。(吉水)

佐藤現地事務局長による総括

続いて、佐藤祐介さん(現地世話人会事務局)からの集会の総括がありました。▼はじめに、約四七〇人の参加により盛会のうちに集会



佐藤事務局長

が終了したこと、尽力いただいた皆さんへの感謝が述べられました。そして、**社全協関西ネットワークをはじめとした、実践者のつながりが土台となったことが何よりの成果**であったと。▼本集会は「いま改めて『権利としての社会教育を問い直す』」を正面に据え、九州集会から託された「社会教育のバトンを未来につなぐ」というテーマを継承・発展させることを目指したとまとめられました。▼課題としては、①理論と実践の実現、②次世代につなぐ仲間づくりの強化、③オンラインを活用した学習の実現、が挙げられました。▼最後に、**集会のバトンを手渡していくことに関われたことが大きな学びであったと締めくくりました。**(吉水)

報告1:「社会教育現場職員の思い」

佐野万里子さん(公益財団法人奈良市生涯学習財団春日公民館館長)からの報告▼佐野さんは「**公民館のおぼちやんになりたい!**」という思いから、奈良市生涯学習財団の職員となり、奈良市の公民館で様々な実践を重ねてきました。▼報告では、南部公民館で行なわれた、子どもたちが多様な大人に出会う実践、「**なんなん?おもしろ体験**」が取り上げられ、様々な地域の団体とつながり、共に実践を作り上げていったことが語られました。▼そのほか、奈良集会を経て集まった「**社会と教育の未来ネット・なら**」や奈良市の公民館をめぐる課題に対して、市民から巻き起こった特別学習会「**もっと知りたい!公民館!**」についても言及され、**地域における「つながり」の重要性や市民の学習要求に応えていく専門職員、公民館の必要性が再確認**されました。(輪玉)

報告2:「原発の現地取材からみえてきた地域の暮らしと住民の学び」

伊藤宏さん(和歌山信愛女子短期大学、元共同通信記者)からの報告▼報告の中心は、三重県南島町での60〜2000年代にかけての中部電力による「**芦原原発計画**」への反対運動です。▼住民らは、原発を「**町の問題**」として「**自分たちの地域・生活を守るため**」に「**住民の学び**」を作り上げていったといえます。▼そして、その学びをもとに、デモや署名活動等の反対運動が繰り広げられました。▼激しい反対運動の末、計画は完全に白紙となりませんが、推進派と反対派の対立により、深刻な地域社会の分断が起きました。▼当時を振り返って、伊藤さんは「**原発は、施設そのものの危険性以前に、計画が持ち上がっただけで地域社会の間関係を破壊することを痛感した**」と語りました。(輪玉)

報告3:「福島の 学びの取り組みから」

庄子まゆみさん（元南相馬市立中央図書館長）からの報告▼震災後の南相馬市で、図書館を皮切りに、社会教育施設が再開されていった様子が報告されました。▼震災後、不安定な心理的状况が続く市民の間で、徐々に「放射線量のことをしりたい」「不安を地域で共有したい」「本を読みたい」等の欲求が生まれてきたといえます。▼報告では、市民運動の結実として完成した南相馬市立中央図書館での現在の取組についても言及され、「一番の被害者は子ども」だという思いから、子どもの読書推進活動に力を入れていると語られました。▼復興期における図書館の役割について、和歌山大学・学生の言葉を引用しながら、「図書館を通じて市民が得たものは知識だけではない。精神的な支え、生きる力、まちをつくる力。それらこそ図書館が人々に与えたものであった」とまとめられました。

(輪玉)

報告4:「関西集会の成果 と社会教育の課題」

さいごに、「関西集会の成果もふりかえりつつ、次の世代へバトンを託す公共性を取り戻す社会教育の課題」というテーマで、山本 健慈さん（大阪観光大学理事長）からの報告です。▼本集会の成果を「次の世代へバトンが渡される風景の見た集会であった」と語られました。▼現代社会の衰退は、知性ではなく反知性、脱法・不法、詭弁、そして倫理の喪失による社会の私物化に原因があると。そのような状況の中、本集会が開催され、社会教育の営みが着実に継承されていることに大きな意義があると述べられました。▼「公共性を取り戻す」とは、「関係者の学習が積み上げられ、社



伊藤宏さん

庄子まゆみさん

会的な承認を得ていく共同学習をとおして、公共性を「創り出す」営み」であると言及されました。▼さらに**社会教育で大切なのは、立場に関わらず、経験を価値として意識化し、当事者として発信していくことであり、構想力やコミユニケーション力を養うプロセスである**といえます。▼学びへの多彩なアプローチと、幸せの自己決定ができる社会の実現に向け、これからの社会協の活躍に期待が込められました。(吉水)

意見交換(コーディネーター・千葉悦子(福島大名誉教授)さん)

賛成・反対の立場を超えて意見を聞き、学び合う場をどう創り出していくか、行政や社会教育職員の力が試されている、という意見や、対立を煽りかねない地元メディアの中立・公正なあり方、感情的な思いを大切にしながらも、衝突を避ける寛容な気持ちを持つまでに時間がかかることなど、語り合う公共空間を創ることとその難しさについてコメントがありました。(吉水)

お便り紹介コーナー

開会集会でミニ講演をしていた鈴木大裕さんからのメールが届きました。

夏の全国集会では大変お世話になりました。全国の様々な人たちにお会いできたこと、そして自分自身の社会教育に対する認識が深まったこととても嬉しく思っています。▼さて、私の講演の出だして行なった花火大会の有料化に関する考察を文章にまとめてみました。

クレスコ10月号

『花火大会は誰のもの』

私たちの手から「コモン」が一つまたひとつと奪われていきます。教育界にも通ずる、深刻な問題です。共に考えていきましょう。

鈴木大裕



千葉悦子さん

佐野万里子さん



関西集会お疲れ様学習会&アフタヌーンティ

「権利としての社会教育」再興のとき

十月二十二日に和歌山大学松下会館で、現地世話人の「お疲れ様学習会」を開催しました。山本健慈さんや社全協関西ネットワークのメンバーをはじめとする総勢二〇名が集まり、オンラインで姉崎委員長らもご参加いただきました。

(井上)

～奈良市の山田龍太郎さんの報告から～

山田さんからは、奈良市の公民館再編を巡って、住民がどのように公民館を守るための運動を繰り広げ、そこに職員が関わったのかについて報告を受けました。報告のなかでは、「今回の関西集会で学んだ「権利としての社会教育」が、窮地に立たされた奈良市の公民館を守る運動につながった」と語られました。(輪玉)

～原田さんの報告から～

図書館分科会・成功の秘訣をご教示いただきました。積み重ねてきたというお話が印象的でした。関西集会に向けて二月から月に一回～三回のペースで世話人会を開催してきたそうで…すごいです！

(井上)



原田貴子さん

引継ぎの風呂敷に紡がれた想いの刺繍♪そして福島へ

古今東西 おでかけ速報

奈良市ママさんコーラス協議会主催 特別学習会「もっと知りたい！公民館！」

輪玉芳野

九月五日(火)。奈良市立中部公民館にて行われた、奈良市ママさんコーラス協議会主催の特別学習会「もっと知りたい！公民館」に参加してきました。

以前から奈良市の公民館が削減されようとしている状況は耳にしていました。しかし、長澤成次先生による講演を聞いて、公民館が地域ふれあい会館となること、つまり非教育機関化されることにより、社会教育法では保障されていた住民の学びの自由が、脅かされる可能性があることについて改めて理解できました。また、防災の面において、地域に公民館があり、そこに専門職員がいるということが、日常的な市民のつながりを生み出すことにつながり、いざというときのセーフティネットになる、という気づきも得ることができました。

講演後に行われた質疑応答・意見交流の場では、奈良市の社会教育職員の方々と住民の方々が築いてきた素晴らしい信頼関係、そして、住民の方々の公民館への思いを目にすることができました。

地域のママさんコーラスの方が「この問題、もっと知らなあかんのちゃうん？」というところから、「二、三週間で一〇〇人以上を集め、そこに集まった住民の方々が学び合い、「じゃあ私たちの公民館を守るために、実際に何をしたらいいの？」と新たな運動につながっていく」はじめはたった一人の課題意識だったとしても、それが地域みんなの課題意識となつて、実際の行動に移っていく！そんな場面に参加することができて、私は「これが社会教育なんだ」と感嘆する思いと、「もっと注目していかないといけない問題だな」という熱い思いが共有された学習会でした。

奈良市ママさんコーラス協議会主催

特別学習会「もっと知りたい！公民館！」

公民館とは何か？ 公民館の果たす役割？
地域ふれあい会館との違い。そして、公民館がなくなると？

日時：2023年 9月5日(火)
10時～11時30分 ※受付9時30分～

会場：奈良市立中部公民館 5階ホール

講師：長澤 成次 先生 千葉大学名誉教授
※寄書『公民館はたれのものI・II』など

対象：ご関心、ご興味のある方はどなたでも

定員：100名(先着順)

費用：無料

申込み：申込不要ですので、直接会場にお越しください。

◆学習会を開催するきっかけと概要
今年度末に奈良市教育委員会から、市内公民館24館のうち主要学習センターと中核、高専、地域、高齢、新設(つづ)公民館の5館が「福祉公民館」と位置づけられ、それ以外はふるまのどに転換(ふれあい会館)に機能転換する案が発表されました。

これは、公民館の運営を地域自治協議会に任せて、これまでにも自主グループを支えてきた公民館の専門職員を専任から退職等に向けつつある状況に鑑み、私たち公民館の利用者や地域住民への被害はなく、市の社会教育委員や公民館運営協議会、奈良市議会議員たちからも異論が相次いでいます。

そこで今回、公民館についてもっと知るために、全国的に著名な先生をお招きして、このことが今後の私たちの自主グループ活動や、地域の未来に及ぼす影響についてわかりやすく教えていただきます。

学習会の問合せメール: mottokouminkan@gmail.com

速報後記：集会広報班のメンバー募集中です。速報などを発行しています。希望者は現地世話人会事務局まで。
★現在のメンバー：佐藤、玉置、吉水、輪玉、水本、舟瀬、井上、山田(班長)